

プロジェクトの概要

- かつての福山港内港は、下水の影響等により生じたヘドロが海底に堆積し、スカムと呼ばれるヘドロの浮遊現象や悪臭が生じるほど環境が悪化していました。
- 環境改善のため、2010～2013年度に底質改善実証試験が行われ、2014～2016年度に広島県により底質改善事業が行われました。
- 底質改善は、再生資源(石炭灰造粒物および鉄鋼スラグ)を用いた覆砂を実施し、干潟を創出しました。
- 施工後の維持管理については、広島県、福山市、中国電力(株)、JFEスチール(株)により継続して状況確認を行っており、広島大学は施工前後の現地状況について調査研究を行っています。
- 2021年度から干潟におけるCO₂吸収能力を評価するための事前活動、2023年度から調査に取り組み、CO₂吸収機能の維持・拡大も目的としています。
- 引き続きモニタリングおよび必要に応じた対策や普及啓発活動を実施します。



使用した再生資源（石炭灰造粒物）



使用した再生資源（鉄鋼スラグ）

プロジェクトの特徴・PR

- 再生資材を用いた覆砂による底質改善実施後のモニタリングにより、スカムの発生や悪臭の大幅な改善が確認されました。
- 施工前には生き物が全く確認されませんでしたが、現在では環境の改善によりチヌやハゼ、ボラ等の魚類、ウミウシ等の底生生物、サギ類等の鳥類の飛来など様々な生き物が確認されています。
- 干潟部ではクロフィルa量が多く、微細藻類が豊富に確認されています。
- 本クレジットのCO₂吸収量は、17.6t-CO₂と認証されました。



飛来したサギ類



干潟部に繁茂する微細藻類



事業実施前



事業実施後